

告示	番号	56	慢性心疾患
	疾病名	大動脈弓閉塞症（大動脈弓離断複合を除く。）	

## 大動脈弓閉塞症（大動脈弓離断複合を除く。）

だいでうみやくきゅうへいそくしょう（だいでうみやくきゅうりだんふくごうをのぞく。）

### 概念・定義

大動脈弓の一部内腔が閉塞し索状物でつながるもの。心室中隔欠損などの心内奇形を合併しない。新生児期にはプロスタグランジン E1 点滴が必要、また新生児期、乳児期早期に手術が必要である。

### 症状

基本的には大動脈弓離断症と同様の症状を呈する。上肢には酸素化された血液が、また下肢には脱酸素化された静脈血が流れるために、下肢ではチアノーゼが出現する(differential cyanosis)。閉塞している部位の違いにより左上肢にもチアノーゼが出現する場合がある。

PDDT が狭いと新生児早期から多呼吸、陥没呼吸、哺乳困難、尿量低下などの心不全症状が出現する。また、閉塞している部位により四肢の脈の触知に差が出現する。一方、PDDT が比較的太い場合には心不全の

症状も遅れ、乳児早期になり出現する場合もある。このような症例では四肢の脈の触知に有意差がない場合もある。

PDDT が閉鎖すればショック状態となる。

### 治療

PDDT の開存療法が生命維持に必須であり、プロスタグランジン E<sub>1</sub> の持続静注を行う。根治術が必要であり、大動脈形成術を行う。

抜粋元：[http://www.shouman.jp/details/4\\_56\\_75.html](http://www.shouman.jp/details/4_56_75.html)